

僕は後悔していない

「これでいいんだ、これでいいんだ。」
と、僕は自分に、言い聞かせながら、
やがて、今来た道を、土手づたいに八幡の駅へ戻った。

家に帰ると、まだ、西日は強く、
昼の暑さは衰えようがない。

頭がすこし痛む。

部屋に戻り、ゴロンと横になり、
昼寝しようとした。

自分がなんだか新しく、別の境地に足を入れた
思いで、再出発しようとしている様に感じた。

母には、軽く、別に、そう、気にして

いない様な態度で、今日あった事を話すと、
「そうか」とひとこと言っただけだった。

部屋に戻ると、自分が悲しくなる。

彼女は、なるほど、全く関係のない他人だ。

僕がこんな苦しい気持ちでいるからと

言っても、彼女には関係ない。

ただ、後から出る言葉は、自分は
馬鹿だったと言う事である。

しかし、僕は後悔しない、いい経験になったと思う。

馬鹿で当たり前のいい経験になったと思う。
自分をさらけ出したのは、初めてだ。

いつか、もっと、素直（すなお）に自分を出せる人間になりたい。